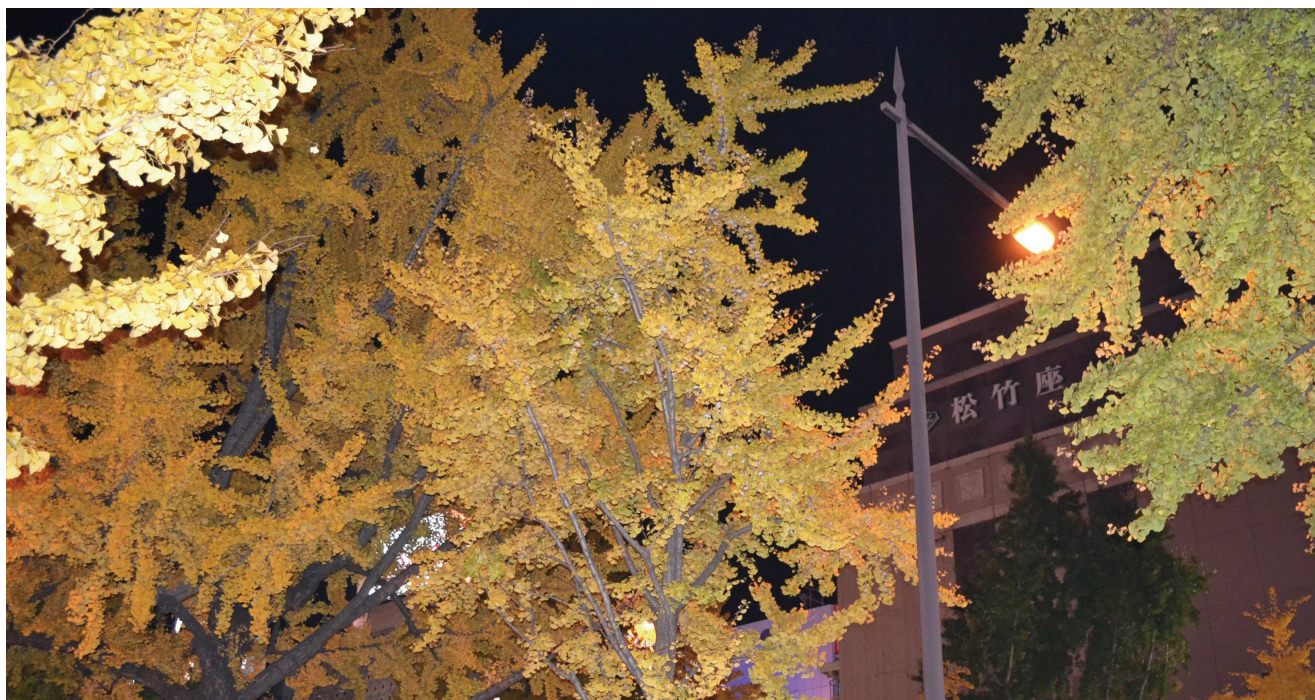


真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第15号

平成26年(2014年)
10月1日 発行



こがね色に染まる「御堂筋」いちょう並木

「これからずっと勉強せなあかんの？」

小学校一年になる息子の質問です。とつさに「何でも分かるようになったら、勉強から卒業やな」と答えてしまったものの、何をもって「卒業」となるのでしょうか。

先徳は「心得たと思うは、心得ぬなり」という言葉で「仏法に卒業はない」と教えてくださっています。

つまり「分かった（心得た）」という勝手な思いが、教えを聞くという歩みを止め、腰を下ろしてしまうからです。

その結果、自分の思いという狭い殻に閉じこもり、自分中心のものの見方しかできなくなっているそのことさえも全く気づけないでいます。

だからこそ自分の知恵・経験を超えた仏法に、生きる姿勢を聞き続けよと呼び続けられているのです。

今回の息子の何気ない一言は、私自身の仏法聴聞の姿勢を問い続ける呼びかけとなっています。

（玉出宗順）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

てらだ むねたか
報恩寺 寺田宗隆

京都・清水寺の境内にある随求堂^{ずいぐどう}には、お堂の下を菩薩の胎内に見立てた「胎内めぐり」があります。私も先日、実際に体験してきました。

お堂の下に一歩足を踏み入れると、そこはまったく「ひかり」の届かない世界。隣の人どころか、自分の手のひらすら見えません。

「ひかり」がない世界では、私たちの目は役に立ちません。

壁伝いにロープが張られ、それを頼りに歩いて行くと、建物の中心にある石が、ほのかな「ひかり」に照らされているのが見えます。

何も見えない暗闇にいと、人は不安になります。が、「ひかり」を感じるとホッとします。

数分間の体験でしたが、「ひかり」がないと役に立たない私の目を実感したことでした。

闇

現代社会は、夜といっても何らかの「ひかり」があり、真つ暗闇とはいえない中での生活です。したがって、少し時間をおけば目も慣れ、うつすらと見えてきます。最小限の「ひかり」が私たちの回りにあるおかげなのです。

そう思うと、「ひかり」ってありがたいですね。目があるから、物が見えるのではなく、「ひかり」があるから物が

見える。この目で見ているつもりなのですが、実際のところそうではないのです。

ひかり

阿弥陀さまの「ひかり」は恵日^{けにち}にたとえられます。

太陽のごとく、何ものにも妨げられることなく届いている阿弥陀さまの「ひかり」によって、真理に昏^{くら}く、道理に暗い無明の世界にいる私自身が照らされます。

そして阿弥陀さまの「ひかり」に照らされることによって初めて、私自身のまことの姿が見えてくるのです。

(平成26年3月24日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

現代社会の中の真宗

文化時報社記者

泉^{いずみ} 英明^{ひであき}氏



平成26年7月4日開催の法
友会研修会で文化時報社の記
者で浄土真宗を担当しておら
れる泉英明氏よりお話しをい
ただきました。

※ ※ ※

新連載「現代に生きる浄土
真宗」を開始しました。

真宗各派が大遠忌を終え、
人口減少や宗教離れがいわれ
る中、次の50年に向けてのよ
うにご法義を伝えるかという
テーマです。

企画を開始した理由は、私

の生い立ちも関係しています。

岡山県の生まれで実家の菩
提寺は臨済宗ですが、父は香
川県高松市の出身で、先祖代々
のお墓は真宗興正派のお寺に
あります。今はそのお寺との
縁が無くなっており、私自身
がまさに「離郷門信徒二世」
なので、子どもの頃からお念
仏を聞いたことがあります。

その私のご縁によって浄土
真宗の教えに触れ、阿弥陀さ
まの「光」に照らされている
はずなのに実感が無いことが
今回の自分自身の問いなので

す。本来は門徒のはずの自身
を見つめ直そうと連載を始め
ました。

初回は、本願寺派の法統を
継承した大谷光淳門主が会見
で語った「人の悩みや悲しみ
に寄り添うお寺に」という言
葉に着目しました。本願寺派
は東日本大震災などを通じ、
「寄り添うこと」の重要性を説
いており、対機説法をする布
教使の育成という難しいテー
マに取り組まれています。
また、葬儀や法事の機会を
大切にし、中陰では七日ごと

に変わる遺族の皆さんの気持
ちに寄り添う法話をする。基
本でありながら、なかなか難
しいことのようなのです。

今後、葬儀の問題も扱いま
すが、儀式が簡略化される現
代社会の中で、大切な人を失
った悲しみに寄り添う機会が
一つずつ減っています。僧侶
による新たな形の寄り添い方
が求められているのではない
でしょうか。

お話を聴いて

親鸞聖人も「ねんごろのこ
ころ」と、一切衆生が寄り添
い生活することが、念仏者と
して生きることのしるしであ
るとお示し下さっています。

お念仏の生活の大切さを気
づかせていただく研修会とな
りました。

(筆名 彰 記)

大阪探検

すし しゅんぎょさい
鮓旬魚菜

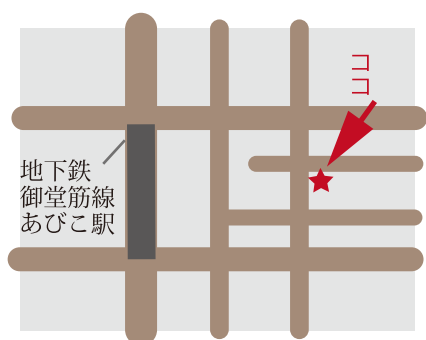
きぐち



「きぐち」の外観



『大悲』編集会議後のいつもの風景



大阪市住吉区苅田 7-5-20

地下鉄御堂筋線「あびこ駅」

より 徒歩 5 分

電話 06-6696-6880

営業時間 12 時～ 14 時

17 時～ 23 時半

定休日 月曜日

大阪別院から徒歩5分、あびこ商店街の一角に「大悲の会」編集会議後、いつもお世話になるお店「きぐち」があります。

パリで京料理の腕を振るう国際派

長崎県五島列島出身のマスター木口義宏さん(51)は高校卒業後、大阪の辻調理師専門学校で和食を勉強。在学中からアルバイトとして働いていた江戸前寿司の老舗高級店「福喜鮓」で修行すること5年。

念願の海外での料理人としてのチャンスが訪れ、2年間パリのコンコルド広場にある「京懐石・衣川」で板前として活躍。帰国後は、お兄さんが営む焼き鳥店を4年間支え、その後は東大

阪で居酒屋を経営されてきたといいます。

鮮魚が自慢・鮮度に自信

7年前にこの地に「きぐち」を開店。鶴橋鮮魚市場での毎日の仕入れにもこだわりがあり、魚ごとに仕入れる店を決めているとか。「福喜鮓」のような質の高い料理をお手頃な価格で提供しているのが自慢です。

「漁場に恵まれた五島列島では養殖ものはありません。すべて天然の鮮魚です」の一言に魚へのこだわりが伝わってきます。また、鮮魚に合うものと、全国のお酒の試飲も怠りません。

それにしても「大悲の会」メンバーの「飲みっ振りのよさには驚いております」と喜んでいただきました。

(長田 譲)

全国の

ごえんさんを訪ねて

こうとくじ きよはら じゅん
光徳寺（兵庫） 清原 純 住職



光徳寺全景

今回は中国教区兵庫組の光徳寺・清原純住職をお訪ねしました。光徳寺は六甲山系北部の淡河おとうの町にあります。美しい里山ですが昔は大きな湖があり、縄文時代の遺跡も発掘された歴史のある土地です。光徳寺は享禄元（1528）年の開基とされ現住職は18代目です。お寺には室町末期の作とされる阿弥陀如来絵像があり、歴史を今に伝えていきます。また、何度かあったお寺の一大事のときには、いつも過去帳とともにお寺の外に持ち出されていたそうです。

お寺とご縁

住職は在家のご出身で、障害児教育を志し学んでいるときに、お寺の娘さんとは知らずに坊守さんと出会い、結婚されました。30代半ばに実父の死をご縁に光徳寺に入寺され、坊守さんのおじいさまから住職を引き継がれました。慣れない法務に、田舎暮らしに、先代のときに火事で焼けてしまった本堂の再建のご苦勞に、何度も「やめてやる」と挫折しそうになったそうです。しかし法務のかたわらの農業で「緑の大地にはりつき、命を育んできたことが大きな支えになった」と言われます。



阿弥陀如来絵像

受け継いだバトン

ご門徒さまのご協力のもと本堂は見事に修復されましたが、今の本堂の姿を先代住職に見せられなかったことが残念だそうです。

布教使として各地を回られることも多いそうですが、お盆にはご長男やお孫さんと一緒に門徒さまのお家にお参りをされます。

しっかりと先代から受け継いだバトンを持ち「もうすっかり土地の人間ですわ」と日に焼けたお顔で笑っておられました。

（佐々木太一）

■光徳寺（こうとくじ）

〒651-1601

神戸市北区

淡河町北僧尾847

電話 078-959-0360

Fax 078-959-0360

大悲トピックス

■大阪教区教務所長の紹介

大阪教区の教務所長が任命されましたのでお知らせいたします。

松野正剛（第六組・光念寺）

■新住職の紹介

藤澤泰人（第四組・唯信寺）

■佛青懇和会・雅楽研修会参加者募集

佛青懇和会では、毎月一回（原則として最終土曜日の午後6時から大阪別院にて）、雅楽研修会を開催しています。

雅楽演奏で「三管」と呼ばれている笙・篳篥・龍笛。まずは、それぞれの管ごとに集まって

お稽古をし、最後には三管そろって合奏しています。

10月の大阪別院報恩講での演奏を目指してがんばっています。

今回、新しい参加者も募集していますので、ご興味のある方は「佛青懇和会」までご連絡ください。

■滋賀のご寺院一行・大阪別院を参詣

滋賀北教区・寺族研修会の一環として、8月31日、寺族の方々25名がバスにて大阪別院を参詣されました。

中井輪番が滋賀北教区で布教された際「ぜひ大阪別院へお越しください」とお話しされたのがきっかけとなり、今回の研修会が実現しました。日帰りの研修会としては一番の遠出だとか。

参詣後は、道頓堀の「がんこ寿司」で懇親を深められたそうです。



上 中井輪番のお話に耳を傾けられる皆さん
下 バスにて次の目的地へ出発されました

■懇志御礼

神戸市北区 光徳寺様
岡山県真庭市 正覚寺様
三重県いなべ市 東光寺様
新潟県長岡市 長善寺様

燦ホールディングス グループ
なごみ庵
き・た・は・ま
KITAHAMA
法要料理 ■四條畷店 ☎0743-78-7521
■瓜破店 ☎06-6769-0140
■伊丹店 ☎072-773-7531
※2012年5月現在 2-0132

御本山 近 用達
株式会社 川勝法衣店
フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入
電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

御本山佛光寺御用達
井筒法衣店
〒600-8503
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
フリーダイヤルTEL 0120-075-720番
フリーダイヤルFAX 0120-075-490番

株式会社 モントラベル
〒550-0013
大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
TEL. 06-6531-1344
FAX. 06-6531-1346
http://www.monto.co.jp
仏跡参拝ならお任せください!

(株) 小林造園
代表取締役：小林正典
〒603-8442
京都市北区西野山東町 36-1
tel 075-491-4256
fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ
まごころ葬儀を創造する。
公益社
公益社 葬儀相談センター (24時間・365日受付、通話料無料・携帯電話OK)
0120-567-701
※2012年5月現在 2-0131

だいひ 絵日記

- 7月 4日(金) 法友会研修会(現代社会の中の真宗・講師:泉 英明氏)①
 7月 7日(月) 佛青懇和会研修会(書道講習会・講師:佐々木晶子 師)
 7月23日(水) 大悲の会編集会議(第15号読み合わせ)②
 7月24日(木) さつき会研修会(本山坊守研修会参加)
 7月26日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽研修会)
 8月13日(水) 大阪別院孟蘭盆会(～15日)
 8月28日(木) 大悲の会編集会議(第15号読み合わせ)
 9月 8日(月) 法友会研修会(信仰に人生を奪われないために・講師:瓜生 崇師)③
 9月20日(土) 大阪別院彼岸会(布教:脇阪義仁 師)
 9月23日(火) 大阪別院彼岸会(布教:行友伸二 師)
 9月25日(木) 大悲の会編集会議(第15号発送作業・第16号内容検討)
 9月26日(金) 大阪別院彼岸会(布教:玉出宗順 師)
 9月27日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽研修会)
 9月28日(日) 佛青懇和会研修会(一泊研修会)(～29日)



ご寺院、お役に立てる商品が、
きつと見つかる情報誌!

寺がある、法が活きる、寺の友社。



〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

正しい値段 正しい奉仕



南海高野線堺東銀座街
〒590-0077 堺市堺区中瓦町1-3-9
電話 072-232-0067・1565
FAX 072-232-6339

京
懐
石



慶事、仏事、各種会合等の際は、
和光庵の仕出し料理を
御利用下さい。

株式会社 和光庵
〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
TEL 06-6774-8090 www.wakouan.co.jp
西天満店 結心(ゆいごころ)
〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1 階
TEL 06-6809-6311 www.yuigokoro.com

協 賛

法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

お墓なんでも相談センター

とわ おも かたち かえ
永遠の想いを像に還るお手伝い



ヨシザワ

株式会社 吉澤石材工業所

フリーダイヤル 0120-49-1482

創業安政3年

京 佛 具 調 進

森田屋

福野御佛具處

〒601-8424

京都市南区西九条猪熊通九条上る
tel. fax 075-691-8423



大阪教区・別院 行事予定



さつき会（坊守会）

10月15日（水）午後2時 研修会

講師：福嶋崇雄 師

11月28日（金）本山・御正忌報恩講参詣

大悲の会（『大悲』編集会議）

10月23日（木）午後6時 編集会議

11月19日（水）午後6時 編集会議

12月25日（木）午後6時 編集会議

佛青懇和会（青年会）

10月24日（金）午後4時 仏具おみがき

10月25日（土）午後6時 雅楽研修会

11月29日（土）午後6時 雅楽研修会

12月27日（土）午後6時 雅楽研修会

※場所明記のない行事は大阪別院で開催

大阪別院・御親修報恩講

10月27日（月）午後2時より

勤行・御親教・複演・挨拶

複演（法話）：宮尾睦雄 師（滋賀・安楽寺）

編集後記

★『大悲』編集会議は毎月一回開催しています。日程はメンバー間で調整し、皆が都合の良い日を選んでいますが、暗黙の了解として「月曜日」を外しています。なぜなら「月曜日」は、行きつけのお店「きぐち」（4頁「大阪探検」参照）の定休日だからです…。★6頁「大悲トピックス」で紹介しました雅楽研修会について。

て。今秋の大阪別院報恩講に向けて熱心にお稽古しています。最近では、本山での雅楽研修会にも参加。10月27日（月）午後2時から大阪別院報恩講では「雅楽演奏」にもご注目ください。ご参詣お待ちしております。★お彼岸も過ぎ、涼しくなってきました。ご自愛のほどお念じいたします。（隅谷俊紀）

大阪教区・別院だより『大悲』 第15号

平成26年（2014年）10月1日発行（発行部数2100部）

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲（会長）

隅谷俊紀（副会長）

寿栄松正顕（会計）

玉出宗順（会計）

門川崇志（監事）

佐々木太一

葦名 彰